

◇ 1月の天文暦 ◇

日	時	記	事
1	7	月	最遠
2	21	地球	近日点通過
5	0	朔	
	20	小寒	(太陽黄経 285°)
10	18	木星	合
12	14	上弦	
17	6	月	最近
19	6	望	
20	14	大寒	(太陽黄経 300°)
26	15	下弦	
27	19	天王星	留
29	1	月	最遠
	5	水星	外合

言いたい放題・言いたい放題・言いたい放題

みみっちい話

言いたいことは沢山ありすぎて困るが、GNP が世界第何位かになり、ドルがありあまって使いように頭をなやましてこの国で、まずでてくるのは金のこと、研究費のことである。

ドルがあまって困るのなら、計算機がほしい天文台や研究所に、IBM でも CDC でもいれたまえといえよいのだし、出たい国際会議があったら Pan American によって行ってこいと云ったらどうだろう。シドニーの来年の IAU の総会と、ポーランドのコペルニクス・シン

ポジウムに 50 人ずつ天文屋を送りこんでも、ドルペらしにはあまり役に立たない額でしかないだろう。

と大きなことを云っても、我々のまわりにはもっともっとみみっちい話しかない。海外出張の旅費はおるか、国内の出張の費用のねんしつもままにならないのが実情なのである。

それにつけても、最近では天文の世界にも研究会がひんぱんに開かれるようになったのだが、他のところではどうやって旅費のやりくりをしているのであろうか。皆も困っているのなら、研究会を何とか整理統合してもらえないでしょうか。

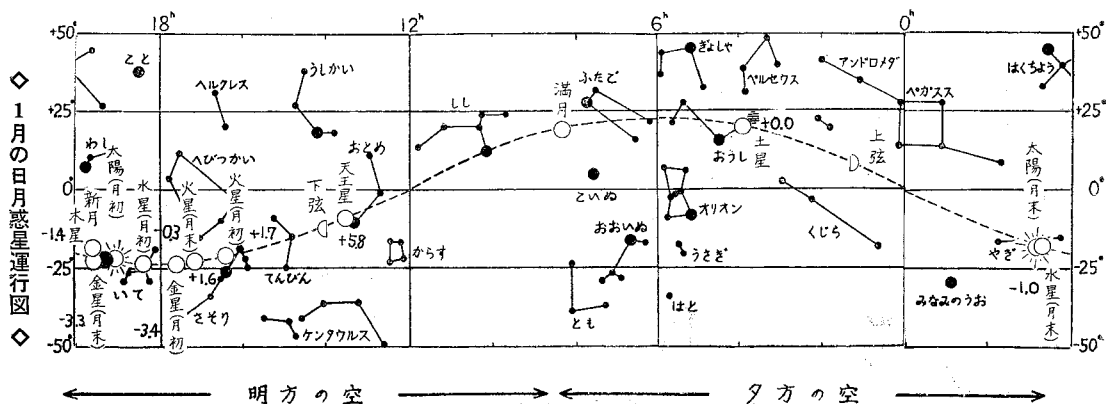
しかも研究会が秋の終りから冬にかけて集中している。これは、文部省の科学研究費が10月か11月にならないと手に入らないためだろうが、天気の良い冬では、たとえ金があっても時間のやりくりが大変になってくる。

この文部省の科研費が 11 月にならないと手に入らないというのも、しゃくの種である。筆者は今年、多年の念願がかなって、科研費をいただけることになったのだが、内定が6月にあって、お金はまだきていない。従って研究ははじめられていない。ところが、来年度の科研費の申請書をもう出さなければならないのだが、ここには、今年度の研究の概要、反省、結果から、研究論文まで書く欄があるのには驚いた。

それでも、科研費はいただけるだけでも有難いので、こんなことでは科研費は役に立たないと云っているのではない。お金がおくれるならおくれて何時頃までにはもらえるといっておいてもらえれば、あらかじめ計画がたてられ、なお好都合というのである。

最後の「言いたい放題」だというのに、話がみみっちくなってしまって申し訳ない。

(東京天文台 古在由秀)



← 明方の空 → ← 夕方の空 →